

4人の先輩たちに、 岐阜県庁で働く魅力について聞きました。

自分がワクワクできる場所ー。それが岐阜県でした。

◆岐阜県庁を選んだ理由は？

宇野 岐阜県は広いですよね。ひとつの県の中でも圏域によって環境が大きく違うんです。それぞれの地域にあった様々な農業振興に携わることできたら楽しいだろうなと思って。それから、私は、いろいろなことに興味があって、民間企業の研究職や教員も就職先として検討していたんですが、ある時、県のホームページをみて、岐阜県の農学職は農業技術の普及指導や研究もできるし、農業大学校にも配属があることを知って「あ！ココ、私のやりたいこと全部できるんだ！」と思い受験しました。

蛭田 僕は、民間を受けようとは全く思っていなくて。公務員のなかでも県職員を選んだのは、地元に落ち着く安心感が一番大きかったです。少しでも安心できる要素の多い就職先と考えて岐阜県を選びました。

天野 僕は、小さい頃からモノづくりに興味があったので、普段、自分たちが使う道路や洪水の時に守ってくれる堤防などの社会基盤整備に携わっていきたくて入庁を決めました。

竹中 私は、大学で幼児教育を専攻していて、大学の講義や実習を経験するなかで、子育て施策に関わりたいなという気持ち

が出てきて。それなら、県内全域の子育て施策に貢献しようと志望しました。

◆岐阜県庁の魅力は？

天野 県内の大規模整備事業に携わって地元貢献ができるところです。

竹中 住民と関わる仕事から、社会政策に関わる仕事もできまし、いろんなことを経験して、自分の得意な分野を見つかるのも県職員の魅力だと思います。

蛭田 県内のいろんな地域で仕事ができるところも県職員の魅力ですね。

宇野 私は入庁2年目で大きな仕事を任せてもらえたうれしさがあります。岐阜県には、年齢に関係なく活躍できる良さがあります。



◆やりがいを感じるのはどんなとき？

蛭田 2～3年で異動があって毎回新しい業務を経験するので勉強の日々で大変ですが、その分、いろんな知識が身につくことで、仕事をしながら自分の成長を実感できるところがやりがいにつながっていると思います。

天野 土木事務所では、設計・工事発注・現場監督・完了検査という一連の業務を任せもらっていたのですが、現場に合う施工を考えるために何度も現地に行きました。その中で、満足するモノが出来上がっていくところが目に見えるため、やりがいを感じる仕事でした。

竹中 生活保護のケースワーカーをしていたときは、受給者の方と一緒にいろいろな職場に足を運んで仕事探しのお手伝いをすることもありました。仕事を見つけて、生活を立て直された方に出会えたときは、とてもうれしかったです。

宇野 私は、花に関するイベントの企画運営をしていますが、お花って、人に見てもらえて「いいな。」って思ってもらうことが大切なので、お客様がたくさん集まって楽しんでくださったときに少しでもお役に立てたのかなうれしい気持ちになります。イベントは、体験、展示、販売などを組み合わせて行うのですが、自分が考えた企画が実現すると「私がやったんだ！」という達成感があります。

◆入庁して知った意外なことは？

蛭田 市町村課では、僕が在籍したこの2年間で、育休を取得



したり、これから取得予定だったりする男性職員が3人います。育児支援制度が充実していて、女性だけでなく男性も育休取得が当たり前になっていることは、入庁するまで知りませんでした。

竹中 若い職員や女性職員が働きやすい職場ですよね。若い職員、女性職員の割合が想像していたより多くて、和気あいあいとしています。プライベートの話もできて雰囲気がこんなにいいとは思ってなかったです。

天野 アットホームな雰囲気がありますね。入庁前はお堅いイメージがありましたら、実際はみんな優しくて、しっかりしているけど、ラフな感じもあり、仕事がしやすい。入庁前はどんな仕事をするか全くわからなくて不安でしたが、入庁したばかりでも、最初から専門的な仕事を一人で担当するわけではなかったので、そこもイメージと違いました。

宇野 県職員は、デスクワークばかりだと思っていたが、意外に外に出る仕事が多くて。土日祝日、どこかの部署で必ずミナモの着ぐるみを使っているので、街でミナモが歩いている

